

2019
秋号

No.220号

職員撮影 風景 京都 東寺

今号の内容

- ご挨拶
- 最近の治療、最新の治療＜脳梗塞、脳出血＞
- 看護部通信 医療安全への取り組み
- 講演会(hitoto 広島)
- 退任の挨拶
- 新任医師紹介
- 学会参加記
- 学術活動 7月～9月

☎ 当院ではWiFi 無料インターネット接続サービスがご利用いただけます。ご希望の方は受付までお問い合わせください。



ご挨拶



副院長 溝上達也

2019年9月からご縁あり翠清会梶川病院に副院長として勤務させていただいております。私は、1992年に広島大学を卒業し、同年広島大学脳神経外科に入局しました。1997年から19年近く県立広島病院脳神経外科に勤務し、その後2016年1月に島根県立中央病院 脳神経外科部長、2018年4月から広島市立安佐市民病院 脳神経外科・脳血管内治療科主任部長を経て現在に至っています。

卒後27年が経過し元号は平成から令和へと変わり、この間脳神経外科領域の診断・治療も大きく変化してきました。MRI, CT, DSAなどの画像解像度は格段に改善され、2次元から3次元、4次元イメージングへ変貌しました。顕微鏡は多機能となり、術中蛍光造影による脳血管や脳腫瘍の描出も可能で、術前シミュレーションによる病変の同定や、術中の電気生理学的モニタリングも併用し、より正確で安全なmicrosurgeryが行えるようになりました。また、カテーテルによる脳血管内治療の進歩も著しく、脳動脈瘤に対するコイル塞栓術や頸動脈ステント留置術は直達術に匹敵する治療となっています。また、脳梗塞急性期の主幹動脈閉塞に対する血栓回収術は、ここ数年でカテーテルが改良され完全開通率は飛躍的にアップし、神経症状なく独歩退院される患者さんも増えています。

従来から行われてきた脳腫瘍摘出やクリッピング術などの開頭術や頸動脈内膜剥離術に加え、脳動脈瘤コイル塞栓術や頸動脈ステント留置術など血管内治療も積極的に取り入れ、より低侵襲で患者さんにやさしい手術を心がけています。患者さん、職員の皆様に信頼され、先生方から安心してご紹介していただけるように、微力ですが精進していく所存です。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくおねがいします。

最近の治療、最新の治療

<脳梗塞、脳出血>

脳神経外科医長 金子 聡

【脳梗塞の治療】

脳梗塞とは、脳の血管が詰まる病気です。詰まった血管によって障害を受ける脳の場所が異なり、場所に応じて麻痺や言葉が出にくいなどといった症状が出ます。

一般的な脳梗塞の治療としては、血管に血栓がこれ以上詰まらないよう血液をさらさらにする薬を使用します。また、発症から経過した時間が短ければ血栓を溶かす薬を使用できる場合もあります。

しかし近年、心筋梗塞の治療と同じように詰まった血栓をカテーテルで取り除く「血栓除去療法」という治療が登場してきました。血栓除去療法には、大きく分けてステントリトラバーと呼ばれる金属に血栓を引っかけて取り除くものと、吸引カテーテルと呼ばれる血栓を掃除機のように吸引して取り除くものの2つがあります。いずれの場合も適応があれば、行わない場合と比べて良い成績が得られることがわかっています。



【脳出血の治療】

脳出血は脳の血管が破れることによって起こります。血管が破れた場所では血腫がたまり、周りの脳を破壊しながら拡大します。破壊された脳の場所ごとに、脳梗塞同様麻痺などの様々な症状が出現しますが、あまりに血腫が大きくなると周りの正常な脳を圧迫し、命に関わります。

脳出血の一般的な治療としては、もし出血を来す特別な原因があるならばその治療を行います。そうでなければ血腫が大きければ血腫を取り除くことになります。

血腫を取り除く方法は一般的には開頭手術になります。血腫を取り除きたい場所の上の皮膚を大きく切り、骨を外し、血腫を吸い取り除去します。

しかし最近では内視鏡で血腫を除去する、内視鏡下血腫除去術が行われるようになっていきます。内視鏡を用いて血腫を除去する場合、骨に開ける孔は500円玉程度の孔1つで済み、そこから内視鏡でのぞきながら血腫を吸引できます。それに伴い皮膚を切る範囲は半分程度で済むため、患者さんにとっては非常に負担が少ない手術であるといえます。



このように脳卒中に対する治療は日々進歩し、最新の医療機器が登場しています。

当院ではこういった最新の治療を遅れることなく取り入れられるよう励んでおり、今回紹介した血栓除去療法や内視鏡下血腫除去術はどちらも行うことができます。

いずれにしても脳卒中は発症からの時間経過が大事になってきますので、気になる症状があればいつでもご相談ください。

当院は、脳の専門病院として 24 時間常に質の高い医療を提供し、患者さんの安全と安心を確保し、医療事故の予防と対策に努めることを基本方針としています。安全な医療を推進するために、医師・看護師をはじめ他職種と部門を超えて横断的な取り組みを行っています。

取り組みの一つとして、全職員対象に年 2 回医療安全に関する研修を実施しています。また、当院では医療事故や医療事故には至ってなくても、発見・対応が遅れば有害な影響を患者さんに与えたと考えられる事例に対して報告制度を設けています。事例を検討し、事故予防対策・再発予防を行い新たな事故の防止に役立っています。

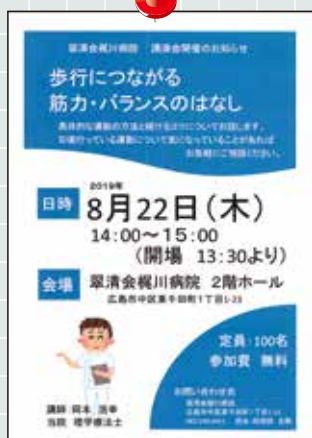


その他、院内の安全対策確認や現場教育のため定期的に院内ラウンドを行っています。ラウンドした結果をフィードバックし、部署ごとに振り返りや見直しをしています。このサイクルを継続的に行うことで少しでも安全な環境を保つことができますようにしています。

このように、院内の安全管理のための基本的な考え方や具体的方策について職員に周知徹底し、安全意識の向上に努めています。今後も、職員一丸となり患者さんの安全を第一に考えた取り組みを行ってまいります。

講演会 (hitoto広島)

リハビリテーション部士長 岡本浩幸



2019 年 8 月 22 日に翠清会梶川病院の 2 階ホールにて、歩行につながる筋力・バランスに関する講演を開催いたしました。主な内容としては、自分の体を知ろう (体力測定)、筋力強化の方法、具体的な運動についてお話しさせていただきました。今回特にお伝えしたかったことは、自分の体の弱点を把握することが大切。筋肉も「貯筋」しておくことが大切。普段の生活へ運動を取り込むことが大切。という点になります。参加者の方から、「自分の体の弱点が分かった」「生活の中で取り組める運動をすぐに実行して

いきたい」などの感想を頂きました。今後の運動や生活を行う中で少しでも参考にして頂ければと思います。

お金は使ったら減りますが、筋肉は使ったら貯まります、減らさない方法は筋肉を使うことです。筋力トレーニングを行い、筋力を貯めていきましょう。





退任の挨拶



この度、9月をもちまして退職することとなりました。
2017年10月から2年間、梶川病院で脳神経外科医として勤めさせて
いただきました。

広島に住み、働くのは人生で初めてのことで、右も左
もわからない状態からスタートしましたが、良き職場の
仲間に恵まれ、また患者さんにも教わることは多く診療
を通して育てていただいたように感じています。

今まで培った知識や経験を、次の職場でも活かせるよ
う邁進していきます。2年間本当にお世話になりました。



脳神経外科学会専門医・脳神経外科医長 金子 聡



新任医師紹介



この度金子先生の後任で赴任しました武井孝磨（たけいた
かまろ）と申します。出身は静岡県で、東京医科歯科大学
の関連施設である梶川病院で勤務することになりました。
広島県は以前から訪ねてみたい土地で
はありましたが、この度縁があり勤務
することになりました。自分自身の研
鑽とともに地域の医療に貢献できるよ
う努めていきたいと思っております。
宜しくお願い致します。



脳神経外科学会専門医・脳神経外科医長 武井孝磨

学会参加記



令和元年7/20-21の2日間岡山県で開催された第22回日本臨床脳神経外科学会に参加させて頂きました。
今回、私は7/20に「転倒・転落についての取り組み」について発表しました。全国での転倒予防への取り組
みを学ばせて頂く事ができました。

今回の研究に参加させて頂き学んだ事を今後の取り組みに活かしていこうと思います。

看護部主任 松谷真悟

令和元年7月20日、岡山県にて開催された第22回日本臨床脳神経外科学会に参加させて頂きました。今
回は、「Trail Making Test part-Bと自動車シミュレーターの関連性」という演題で発表を行いました。

学会発表は初めての経験でしたが、脳血管疾患を罹患された方への自動車運転再開支援が注目を集める
昨今、他病院・施設での取り組みを直接伺うことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。今
回得た貴重な知見を無駄にすることなく、患者さんに還元できるよう今後の業務・取り組みに活かしていま
いりたいと思います。

最後になりましたが、今回ご指導を賜りました松島先生をはじめ、諸先生方、リハビリテーション部職員、
他スタッフの皆様には多大なご協力を頂き、心より御礼申し上げます。

リハビリテーション部 松岡瑞樹

学術活動 7月～9月

7/20-21

第22回 日本臨床脳神経外科学会

転倒・転落防止の取り組み ～転倒カンファレンスを活用して～

看護部主任 松谷真悟

電子カルテと医療ソーシャルワーカー記録のあり方 医療福祉相談部 宮岡由英

Trail Making Test part-Bと自動車シミュレーターの関連性

リハビリテーション部 松岡瑞樹

看護必要度評価表を用いた記録漏れ改善の分析と今後の課題

看護部 廣田さなえ

当院急性期病棟におけるくも膜下出血の肺炎発症の現状と傾向～リハビリ早期介

入の課題と取り組みについて～ リハビリテーション部 原田 亮

2019年7月発行

医学検査 68巻3号 424-429

MMSEと時計描画テストのスコアリングは認知症診断精度を向上させる

臨床検査部 西野真佐美 論著

2019年7月発行

音声言語医学 60巻3号 179-183

dysarthriaの神経学的原因 脳神経内科医長 中森正博 論著

8/25

日本認知症予防学会 認知症予防専門士講座 広島研修会

認知症診断に必要な臨床検査 臨床検査部 西野真佐美

9/7

第21回中四国脳卒中研究会

高浸透圧高血糖群を発症したCADASILの2例 脳神経内科医長 上村鉄兵

9/19

第1回 Reperfusion therapy meeting for Neurologist

最近のAIS症例から 脳神経内科部長 今村栄次



翠清会 梶川病院

TEL: 082-249-6411 FAX: 082-244-7190
〒730-0053 広島市中区東千田町1丁目1-23
<http://www.suiseikai.jp>

《病院理念》

Patient First 「患者さん第一」

ファースト・オピニオン(First Opinion)を提示でき、

セカンド・オピニオン(Second Opinion)を求められる病院に！

《基本方針》

1 脳の専門病院として24時間、常に質の高い医療を提供します。

2 患者さんの権利を尊重します。

3 患者さんの安全と安心を確保し、医療事故の予防と対策に努めます。

4 急性期から慢性期、在宅までの地域の関連機関と連携を強化します。

5 翠清会の職員である誇りを持ち、プロとしての実力を高め、チーム医療に貢献します。

